

# 2026年3月期 第3四半期 決算補足説明資料



2026年2月5日  
品川リフラ株式会社

# INDEX

1. 連結業績ハイライト
2. EBITDA・営業利益の増減要因
3. セグメント別売上高およびEBITDA
4. セグメント別概況 ①耐火物セクター
5. セグメント別概況 ②断熱材セクター
6. セグメント別概況 ③先端機材セクター
7. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター
8. 地域別の売上高
9. 2026年3月期の通期業績見通し
10. 2026年3月期通期 EBITDA・営業利益の増減要因見通し（対前年度）
11. トピックス（モールドフラックス事業のグローバル強化）

# 1. 連結業績ハイライト

(単位：億円)

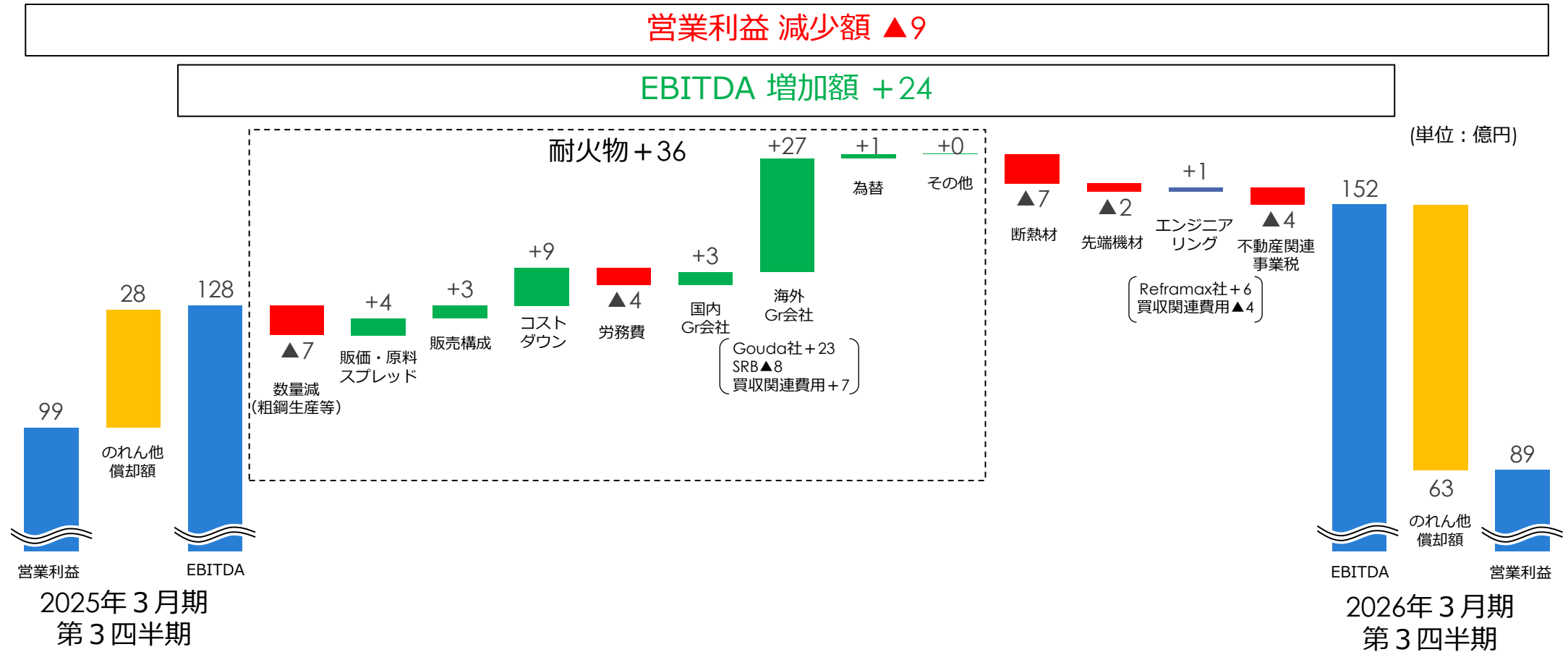
	2025年3月期 第3四半期 実績	2026年3月期 第3四半期 実績	前年同期比	
売上高	1,050	<b>1,300</b>	+249	(+23.7%)
EBITDA	128	<b>152</b>	+24	(+19.0%)
営業利益	99	<b>89</b>	▲9	(▲10.0%)
経常利益	108	<b>108</b>	+0	(+0.6%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	79	<b>299</b>	+220	(+278.4%)
<指標> EBITDAマージン	12.2%	<b>11.7%</b>	▲0.5pt	
ROS (営業利益率)	9.5%	<b>6.9%</b>	▲2.6pt	
ROIC	7.2%	<b>5.3%</b>	▲1.9pt	
DEBT/EBITDA倍率	2.4倍	<b>0.9倍</b>	▲1.5pt	

注1：前年同期比は本表記上の数値ではなく、一の位までの実績値で計算しています。以下同様

注2：EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

- 2026年3月期 第3四半期 国内粗鋼生産量は前年同期比3.6%減の6,028万トンとなり、低迷が継続。
- 売上高は、耐火物セクターにおいて国内粗鋼生産量の減少が続いたほか、海外でも一部のお客様の活動水準が低位で推移し、さらに競合環境の激化も重なったことで販売数量が減少。また、断熱材・先端機材セクターでも需要環境の低迷により減収。一方で、新たに加わったオランダのGouda Refractories Group B.V. (以下、Gouda社) とブラジルのReframax Engenharia S.A. (以下、Reframax社) の業績寄与により、全体では大幅な増収を確保。
- 損益面では、Reframax社の買収に伴う一過性費用(5億円)を計上したものの、コストダウン効果などによりEBITDAは大幅な増益。但し、M&Aによるのれん償却額の増加に加え、赤穂工場の新プラント稼働に伴う減価償却費の増加があり、営業利益は減益。なお、為替差益の影響により、経常利益は若干の増益。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、多額の固定資産売却益を計上したことから大幅な増益。

## 2. EBITDA・営業利益の増減要因



- EBITDAは+24億円の増益を確保。耐火物セクターでは販売数量の減少があったが、コストダウン等に加え、海外グループ会社の業績が寄与し、増益。断熱材・先端機材セクターは需要環境の悪化により減益。エンジニアリングセクターは一過性の買収関連費用の計上があったが、Reframax社の業績寄与により、若干の増益。
- 営業利益は、のれん他償却額の増加により▲9億円の減益。

### 3. セグメント別売上高およびEBITDA

(単位：億円)

		2025年3月期 第3四半期 実績	2026年3月期 第3四半期 実績	前年同期比	
耐火物	売上高	695	<b>829</b>	+134	(+19.4%)
	EBITDA	74	<b>110</b>	+36	(+49.4%)
断熱材	売上高	141	<b>130</b>	▲11	(▲8.0%)
	EBITDA	31	<b>24</b>	▲7	(▲23.0%)
先端機材	売上高	33	<b>30</b>	▲2	(▲7.4%)
	EBITDA	3	<b>0</b>	▲2	(▲75.3%)
エンジニアリング	売上高	188	<b>312</b>	+124	(+66.3%)
	EBITDA	14	<b>15</b>	+1	(+13.1%)
その他（不動産）	売上高	6	<b>6</b>	▲0	(▲2.6%)
	EBITDA	4	<b>0</b>	▲4	(▲96.5%)
合計	売上高	1,050	<b>1,300</b>	+249	(+23.7%)
	EBITDA	128	<b>152</b>	+24	(+19.0%)

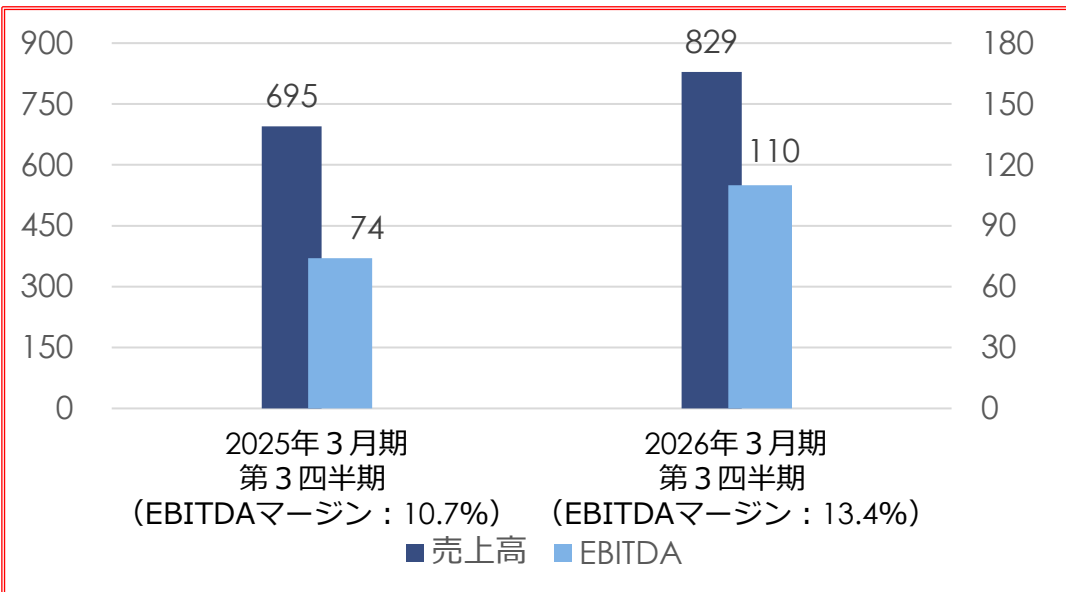
注：合計額には、セグメント利益の調整額が含まれています

# 4. セグメント別概況 ①耐火物セクター

## 業績推移

(単位：億円)

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比	
売上高	695	829	+134	(+19.4%)
EBITDA	74	110	+36	(+49.4%)
営業利益	55	67	+11	(+21.2%)
EBITDAマージン	10.7%	13.4%	-	(+2.7Pt)



## 「業績レビュー」と「今後の課題」

### ＜第3四半期業績について＞

- ▶国内粗鋼生産量の減少に加え、海外でも一部のお客様の活動水準が低位で推移し、競合環境も激化したことから販売数量が減少
- ▶一方で、2024年10月に買収したGouda社の業績が通期で反映されたことにより、増収を確保
- ▶Gouda社の業績寄与に加えて、価格設定の適正化、販売構成の改善、コストダウン等を進めた結果、EBITDA・営業利益ともに増益

### ＜今後の課題＞

- ▶生産プロセスの効率化および原材料・資材の調達最適化によるコストダウンの徹底
- ▶国内の非鉄・工業炉分野におけるシェア拡大の加速
- ▶カーボンニュートラルへの取り組みの一環であるGREEN REFRACTORY※の市場浸透
- ▶グローバルネットワークを活かした拡販のさらなる推進
- ▶モールドフラックス事業のグローバル体制強化

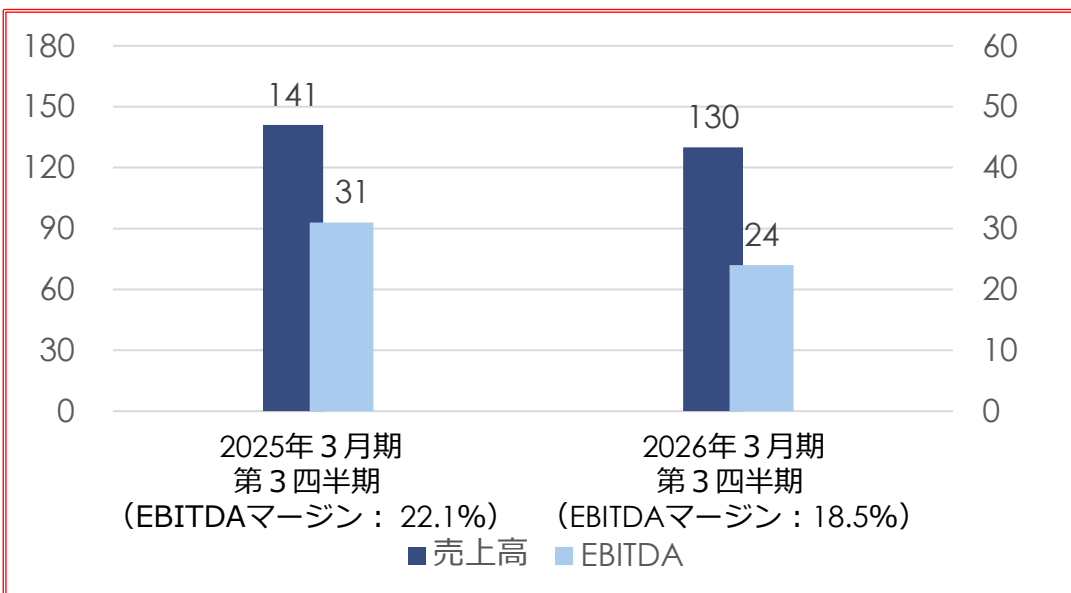
※ GREEN REFRACTORY：使用後耐火物などCO2排出量を実質ゼロと見做せる原料を20%以上活用した製品

# 5. セグメント別概況 ②断熱材セクター

## 業績推移

(単位：億円)

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比	
売上高	141	130	▲11	(▲8.0%)
EBITDA	31	24	▲7	(▲23.0%)
営業利益	25	18	▲7	(▲29.6%)
EBITDAマージン	22.1%	18.5%	-	(▲3.6Pt)



## 「業績レビュー」と「今後の課題」

### ＜第3四半期業績について＞

- ▶ 国内外で受注拡大を進めたものの、半導体製造装置やリチウムイオン電池向けなど高付加価値製品市場における断熱材需要の回復が遅れ、減収・減益
- ▶ 厳しい需要環境は続くものの、第4四半期は鉄鋼設備向け大型案件の受注などにより、業績は回復に向かう見通し

### ＜今後の課題＞

- ▶ 成長市場向け製品の開発強化および需要の捕捉 (半導体製造装置関連製品・燃料電池用部材等)
- ▶ 建築向け防火用・耐火断熱ファイバーの拡販
- ▶ 超断熱製品 (LTCシリーズ※) の国内外市場への浸透
- ▶ 耐火物・エンジニアリングセクターとの協業による海外展開の加速 (インド・中東および南米地域での鉄鋼・非鉄・石油化学プラント等への参入)

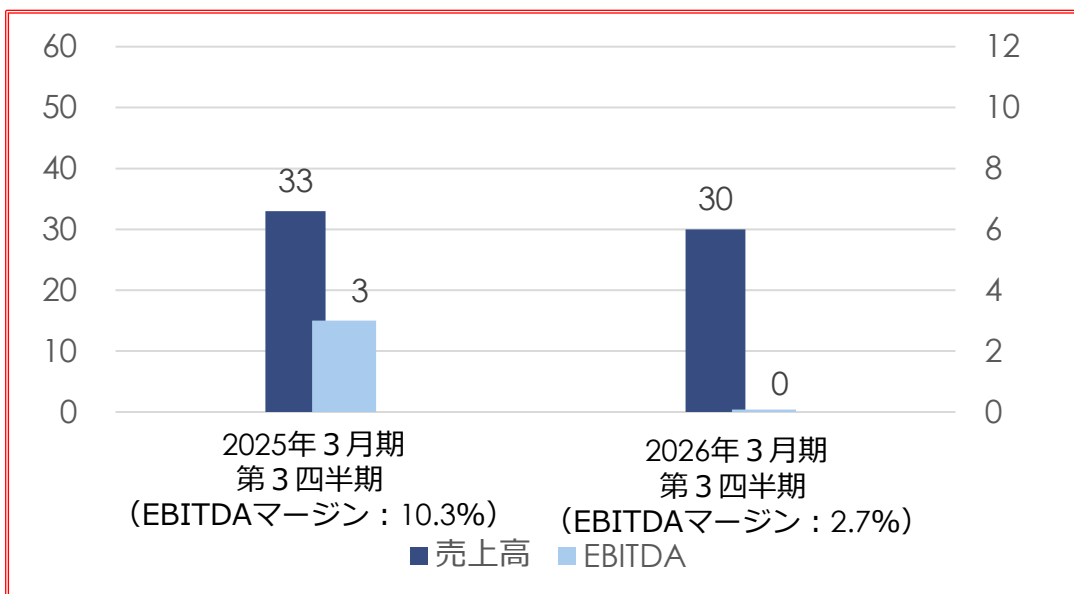
※ LTCシリーズ：マイクロポーラス構造により極めて高い断熱性能を発揮し、熱ロス防止に優れた製品

# 6. セグメント別概況 ③先端機材セクター

## 業績推移

(単位：億円)

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比
売上高	33	30	▲2 (▲7.4%)
EBITDA	3	0	▲2 (▲75.3%)
営業利益	1	▲0	▲2 ( - %)
EBITDAマージン	10.3%	2.7%	- (▲7.6Pt)



## 「業績レビュー」と「今後の課題」

### ＜第3四半期業績について＞

- ▶ ファインセラミックス製品の拡販を進めたものの、半導体製造装置関連製品ではロジック半導体およびファウンダリー関連の投資時期変更や、お客様の在庫調整の影響もあり、販売数量が減少し、減収・減益
- ▶ 主要市場である半導体製造装置向けの本格的な需要増加は来期以降となる見通し

### ＜今後の課題＞

- ▶ 今後拡大が見込まれる半導体製造装置関連製品の需要の確実な捕捉
- ▶ 各分野向け耐摩耗部材の製品開発強化および拡販
- ▶ 無機塗料・無機接着剤製品の販売強化
- ▶ 半導体製造装置関連分野における事業領域の拡大
- ▶ 生産基盤の再構築および生産能力の向上に向けた新工場の立上げ（2026年2月13日に竣工式予定）

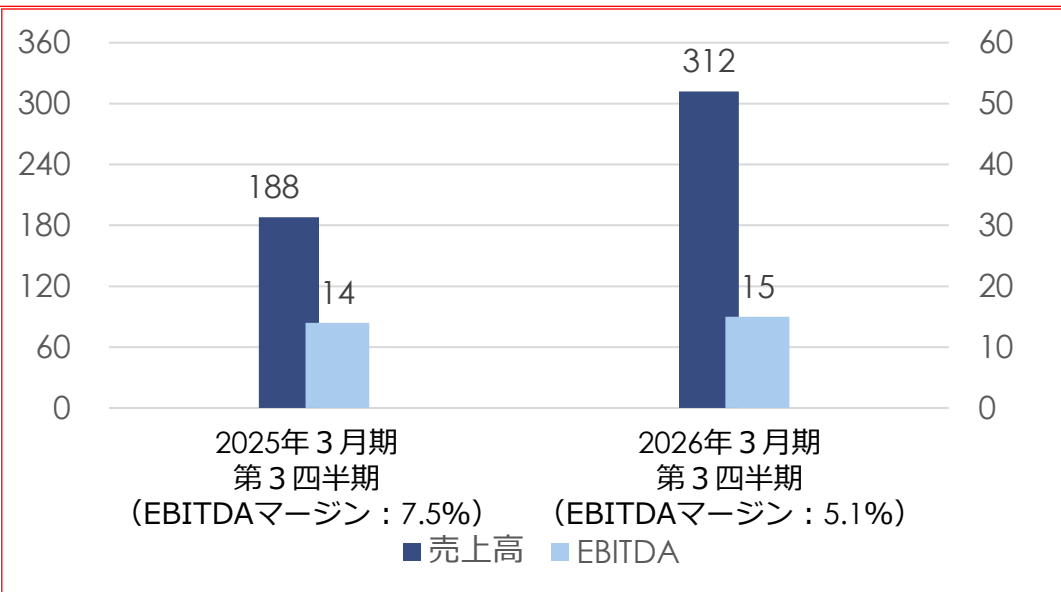


# 7. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター

## 業績推移

(単位：億円)

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比	
売上高	188	312	+124	(+66.3%)
EBITDA	14	15	+1	(+13.1%)
営業利益	12	5	▲7	(▲55.8%)
EBITDAマージン	7.5%	5.1%	-	(▲2.4Pt)



## 「業績レビュー」と「今後の課題」

### ＜第3四半期業績について＞

- ▶新たに当社グループに加わったReframax社の業績が7-9月期より寄与し、増収
- ▶一方、Reframax社の一部プロジェクトの収益計上タイミングが第4四半期にずれ込んだこと、および買収に伴う一過性費用（5億円）の計上等により、営業利益は減益

### ＜今後の課題＞

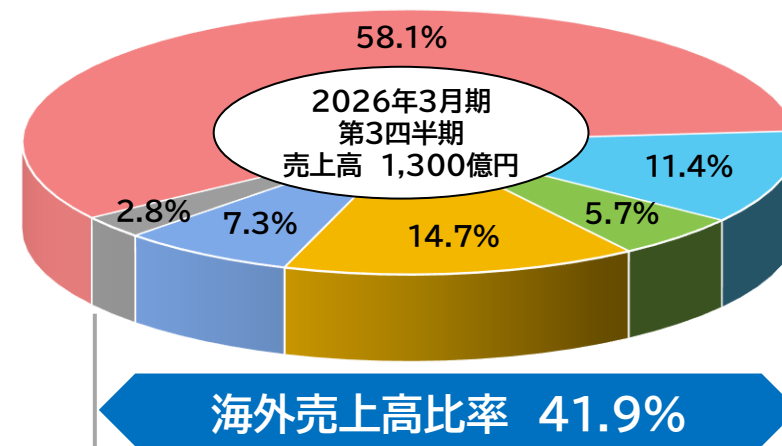
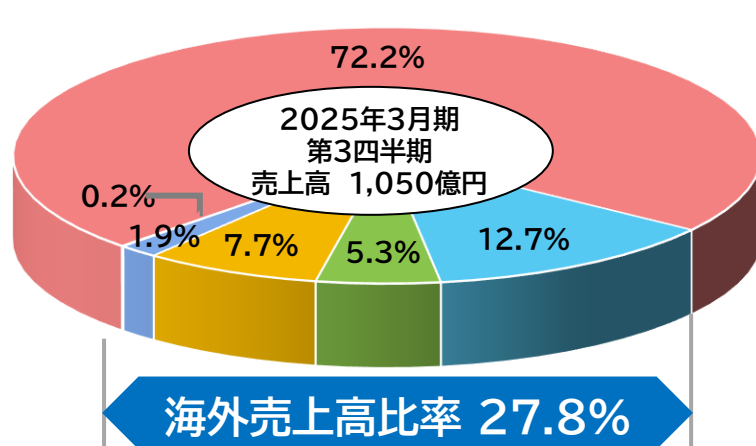
- ▶カーボンニュートラル建設工事案件（大型電気炉等）への確実な対応
- ▶大型建設炉案件（熱風炉改修等）の受注獲得
- ▶高度な技術を要する工業炉分野（カーボン焼成炉等）での受注拡大
- ▶新技術導入による築炉作業等の負荷軽減および効率化（ドローン活用等）
- ▶Reframax社との技術連携によるエンジニアリング事業の強化・拡大

# 8. 地域別の売上高

(単位: 億円)

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比
日本	758 [ 72.2 ]	755 [ 58.1 ]	△0.4%
アジア・オセアニア	133 [ 12.7 ]	147 [ 11.4 ]	+11.0%
北米	56 [ 5.3 ]	74 [ 5.7 ]	+33.3%
南米	80 [ 7.7 ]	191 [ 14.7 ]	+136.6%
欧州	19 [ 1.9 ]	94 [ 7.3 ]	+337.9%
その他海外	2 [ 0.2 ]	36 [ 2.8 ]	+1481.9%
海外計	292億円 (27.8%)	544億円 (41.9%)	
合計	1,050 [100.0]	1,300 [100.0]	+23.7%

注:[ ]内は、地域別の売上高構成比(%)



当第3四半期の海外売上高比率は、前年同期比14.1ポイント上昇し42%となった。ブラジルのReframax社の7-12月期の業績が加わったことで南米地域の売上高が増加したほか、オランダのGouda社の業績寄与により、欧州およびその他海外地域も伸長。Reframax社およびGouda社の業績が通期で反映された場合、海外売上高比率は約45%に達する見込み。

# 9. 2026年3月期の通期業績見通し

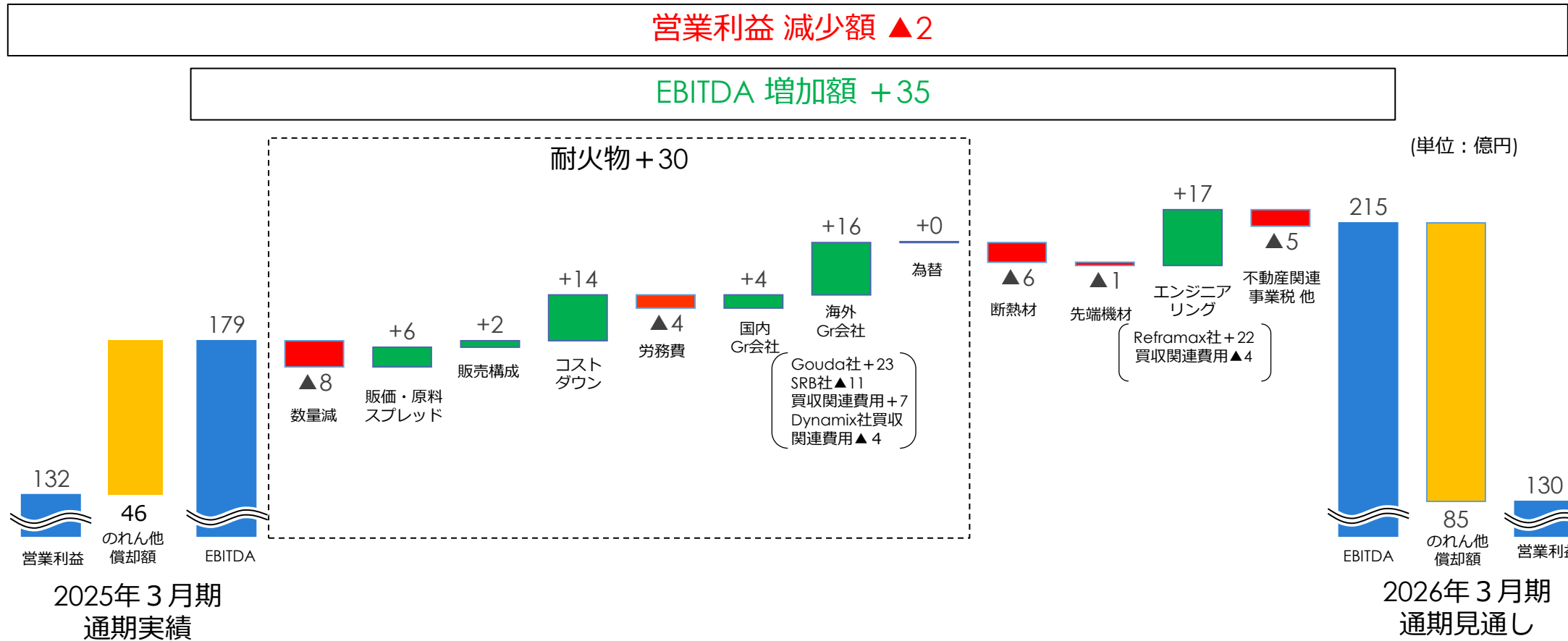
(単位：億円)

	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期見通し (12/11公表)	2026年3月期 通期見通し (2/5公表)	増減 (対前年度)	増減 (対前回公表)
売上高	1,440	1,760	<b>1,760</b>	+319	—
EBITDA	179	230	<b>215</b>	+35	▲15
営業利益	132	145	<b>130</b>	▲2	▲15
経常利益	136	149	<b>149</b>	+12	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	97	310	<b>310</b>	+212	—
<指標> EBITDAマージン	12.5%	13.1%	<b>12.2%</b>	▲0.3pt	▲0.9pt
ROS (営業利益率)	9.2%	8.2%	<b>7.4%</b>	▲1.8pt	▲0.8pt

- 前回公表値（12/11）に対し、Dynamix Casting Fluxes, LLC（以下、Dynamix社）に関する買収関連費用および固定資産売却に伴い発生する事業税（外形標準課税）などの一過性費用の計上に加え、断熱材セクターにおける販売構成の悪化等により、EBITDAおよび営業利益を下方修正。
- 経常利益については、為替差益の影響により前回公表値から変更なし。売上高および親会社株主に帰属する当期純利益についても変更なし。

注：「Dynamix Casting Fluxes社の持分取得によるモールドフラックス製品のグローバル対応力強化に関するお知らせ」については、1/22に公表

# 10. 2026年3月期通期 EBITDA・営業利益の増減要因見通し（対前年度）



国内粗鋼生産の減少をはじめ、国内外のお客様の活動水準の低位継続によるマイナス影響に加え、Dynamix社買収に関する費用および固定資産売却に伴う事業税などの一過性費用が発生。一方、コストダウンの徹底やセクター横断的なグローバルネットワークを駆使した拡販、Gouda社およびReframax社の業績寄与等により、EBITDAは+35億円の増益、営業利益はのれん他償却額を勘案して、▲2億円の減益となる見通し。

## ■ モールドフラックス製品の製造・販売を事業とする新たな海外拠点（下表の新拠点①②）の連結子会社化

	新拠点①	新拠点②
会社名	Shinagawa Danieli Advanced Materials S.p.A. (通称「SHINDAN社」)	Dynamix Casting Fluxes, LLC (通称「Dynamix社」)
所在地	イタリア・トリエステ	アメリカ・テネシー州ハンティンドン
出資比率	当社51%、ダニエリ社※49%	当社51%、創業者ら49%
狙い (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当社の高い性能を持ったモールドフラックス製品をダニエリ社の拠点である欧州で製造</li> <li>・ <b>欧州・中東・アフリカ地域</b>の鉄鋼メーカー向けの製品供給</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Dynamix社が有する高い技術力・顧客基盤・安定した収益基盤の取込み</li> <li>・ <b>米州地域</b>での事業基盤およびプレゼンスの強化</li> </ul>
見通し	2026年度半ばに新工場建設を予定	2025年度中に持分取得を実施予定
公表日	2025年12月18日	2026年1月22日

※ 正式名称は「Danieli & C. Officine Meccaniche S.p.A.」。イタリアの製鉄プラントメーカーであり、高速連続鋳造設備のマーケットリーダーとして、世界的に高い知名度を持つ。

### モールドフラックス

製鉄所の連続鋳造工程において、溶鋼表面の保温や酸化防止、鋳型と鋼塊間の潤滑などに用いられ、**高品質な鋼材の製造に不可欠な材料**。





## ■ モールドフラックス製品に関する拠点の所在地

（★★は新拠点、●●は従来からの拠点）

### 新拠点①

#### SHINDAN社

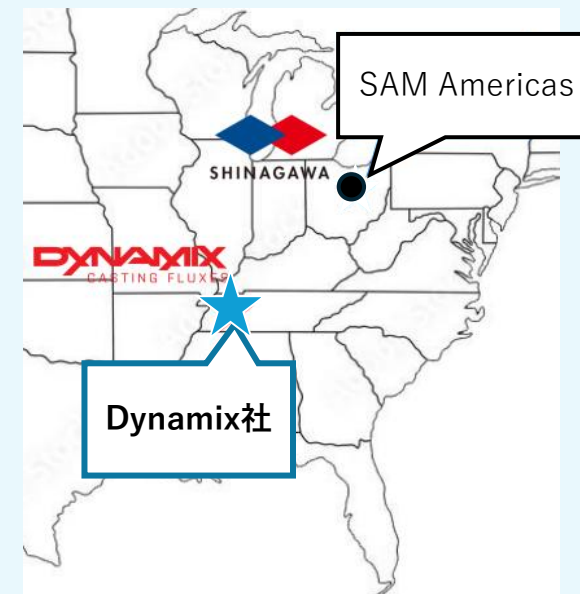
（イタリア・トリエステ）



### 新拠点②

#### Dynamix社

（アメリカ・テネシー州ハンティンドン）



## ご注意

本資料は、2026年3月期第3四半期連結累計期間（2025年4月～2025年12月）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は、2026年2月5日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証又は約束するものではなく、また、今後予告なしに変更されることがあります。